

# 萱

2019・7

# 風萱集

木村 嘉男

令和てふ阜月朔日燕子花  
聖五月真珠のティアラはしけやし  
巨鼓に載り撃ち手煽れる祭り来る  
篝火猛け渡御しらしむる大太鼓  
今朝夏の昨夜祭礼の塵もなし

亀田虎童子

アルプスを知らずその水買うて夏  
老眼の老いとどまりし薬の日  
長生きの秘訣は知らず紙魚つぶす  
反骨をいたぶられたる冷し酒  
改元や渦を増やせるかたつむり

小島 良子

後戻りして藤棚をくぐりけり  
便箋の罫線細し春夕べ  
貝塚の貝のかたまる遅日かな  
永き日の鉄橋を塗り直しけり  
やはらかな鉛筆八十八夜来る

出牛 進

たんぽぽやアンテナ多き宇宙基地  
菜の花や嫌な話はまた後月  
平成の終り告げゆく桜かな  
薔薇咲くやわが家全室南向き  
雨音のたしかになりぬ五月かな

松下 道臣

立春大吉割箸うまく割れただけ  
坂上に雲あらはれし菜の花忌  
建国日天気予報が傘持てと  
芝焼く火警察犬のごと進む  
春雨の音のかはりし二十五時

# 萱集

進選

新築を真白に咲けり花みづき  
蜘蛛の子を散らすといふを見てあたり  
ゆるやかにまとふ女将の単物  
潮の香の流るる岸辺緑さす  
鳥声に汽笛の混じる薄暑かな

千葉 中山 恵子

人氣なき阿寒湖にあり浮氷  
春雨や鉏路湿原また濃ゆく  
雪解や倒木多き保安林  
見はるかす白樺並木凍ゆるむ  
のどけしや幸福ゆきの切符手に

東京 ふなかわのりひと

白藤にさみどりの風揺れやまず  
入相の際目や颯とつばくらめ  
早暁や令和二日の遠蛙  
和久傳の格子に眺む驟雨かな  
辿りきて茅舎旧居碑若葉風

東京 谷田 貝順子

独活和や水嵩増ゆる魚野川  
原稿をはみ出す言葉つつじ咲く  
清明や雀の親子庭に降り  
卵の花やおまけに貰ふ茹で玉子  
山道の葉がはりや花あけび

埼玉 新沢 伸夫

水遣つて莖立ちの丈愉しめり  
沢庵に貼りつく落花いたゞきぬ  
しだれ桜手押しポンプもその中に  
水漬く枝に止まつてゐる花筏  
翅閉じて揺れゐる蝶はイヤリング

千葉 光成 敏子

摘みくれし蕨に風のまとひくる  
身を反りて仰ぐ木立や藤の花  
蛇行して辿りつきたる若葉山  
善男善女杓の触れあふ灌仏会  
囀や語り上手な人と会ふ

栃木 吉田 くら

猫の目の金色にして牡丹かな  
薬草園猫と飛蝗の絡み合ひ  
日の射して靴紐直す雨蛙  
夏燕 森 林 浴を朝刊と  
夏めくや十三橋を川下り

東京 飯塚 トシ子